

「景観生態区分による村落レベルの牧草生産力評価」

大場章弘（慶應義塾大学慶應義塾大学政策・メディア研究科）

日時：4月18日（土）

会場：環境情報学習センター（エコギャラリー新宿）

要旨：

中 国内モンゴル自治区ホルチン砂地は砂漠化の激甚地区に指定されている。その原因としては、牧畜の影響が大きく、放牧における土地利用効率の向上が求められている。これに対し、既往の研究は地形・土壌条件や植生現存量の区分で土地生産力を評価するアプローチが多かった。しかし放牧活動によって牧草の植生現存量は空間的に差異が生じるため、土地生産力の評価はその利用形態を考慮したものでなければならない。

本発表では、土地の自然条件と土地利用の双方から、ALOS/PRISM を用いて景観生態区分を作成、牧草地の生産力を評価した結果を紹介する。また、景観生態区分を用いた土地利用方針への実用性の検討についても触れたい。

今後の予定

5月30日（土）「生態系レッドリストの提案（2）」

（日程が変更になりました・・・）

6月20日（土）奥村忠誠『大型哺乳類の分布拡大要因の推定』東京大学大学院農学生命科学研究科